

研修会4 メルボルン研修会報告

デフテニス全豪オープンテニスサポート報告

日時 令和6年1月23-29日
 場所 オーストラリア メルボルンボールパーク
 参加所員 平田 大輔

全豪オープンテニス：デフテニス部門について

全豪オープンテニスは、1月の中旬にオーストラリアのメルボルンで開催されるテニスの四大大会(グランドスラム)の一つで、2023年から初めてデフ(覚がい)と知的障がいの各門が全豪オープンに採用された。[DHoH]はDEAF & HARD OF HEARING(ろうあ、および、難聴)の略で聴覚に障がいを持つテニスプレーヤーによる競技会である。2024年は1月14日から28日まで開催され、デフテニス部門は26日から28日までの日程で行われた。もっとも、主催者側にしてもデフテニス部門の運営はまだまだ手探りで、選手は一日最多で4試合戦う日もある少し強硬なスケジュールであった。

全豪オープンテニスで、車いすテニス部門が開催されるようになったのは2009年からであるが(2007年全米オープンテニスが最初)、聴覚障がい者テニス(デフテニス)の開催は2023年1月からである。車いすテニスは国際テニス連盟(ITF)の管轄下にあるが、デフテニスを統括するのはICSD(国際ろう者スポーツ委員会)で、これまでのデフテニス最大の大会は4年に一度開催されるデフリンピックであった。2021年ブラジル大会では、日本ろう者テニス協会は選手の派遣を見送ったため、鈴木も派遣される予定であったが出場することはできなかった。しかし、2023年9月にギリシャで開催された世界デフテニス選手権の結果により、国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)

が定めた世界ランキングで、本学体育会テニス部の鈴木梨子選手が世界デフテニス選手権で3位となり、全豪オープンテニスから招待された。そのほか、全豪オープンテニス・デフテニス部門の参加者は優勝した菰方里菜選手(同志社大学)、宮川百合亜選手(日本大学)、昨年度デフテニス部門に参加した喜多美結選手であった。その他、選手をサポートする松下哲也強化総括部長も帯同した。

活動報告

選手らは1月23日にメルボルンに向けて出発。夜便のため24日のお昼にメルボルンに到着。到着後ホテルでチェックイン後に会場に向かいIDカードを受け取り、練習会場へ。練習会場はトラムで20分にあるTennis World Albert Reserveで練習を行った(図1-図2)。

25日(大会前日)は、会場内にあるナショナルテニスセンターで午前と午後それぞれ約2時間の練習。全豪オープン大会の2週目ということもあり、練習しているのは、ジュニア選手、デフ選手、車椅子選手が中心であった。ナショナルテニスセンターはインドア施設でテニスコート8面だけでなく、ジム、トリートメントルーム、リカバリープールも設置されており、練習環境は非常に素晴らしいものであった(図3-図10)。

午後からは開会式が行われた。開会式は男女参加者とスタッフ・家族が集まっていた。(図11-図14)。

試合は26日からスタート。初日はシングル

スの予選リーグ、3セットマッチのファナル10ポイントで実施された。日本人選手は4人も決勝トーナメントに出場し、日本人の強さが目立った大会であった。2日目からはダブルスもスタート。ダブルスは参加者でランキングに基づいてペアを組みリーグ戦で実施された。試合結果は以下の通りである(図15)。

まとめ

今回は1週間であるが、グランドスラム大会に選手のサポートとして帯同することにより、全豪オープン大会の運営側についても知ることができた。またデフテニス選手とともに宿泊も兼ねて帯同することにより、コミュニケーションの取り方や試合においても健常者のテニスの試合とは異なるものがあり、いろいろと学ぶことができた。デフテニスでは音が聞こえない中でのプレーということもあり、レット(プレーのやり直し)になったときにプレーが続いてしまう場面をしばしば見受けられた。また、その際、間があいてしまいうズムが取れずにミスが起きてしまう場面もあった。これはデフテニス特有の問題であり、これらの問題について対策することは重要になってくると思われた。また、日本の参加者は大学体育会テニス部に所属している学生であり、他の選手と練習環境が整っているためにベスト4に全て日本人選手であったことも影響しているのではと思われた。今後、参加した選手が大学を卒業したあとのテニスをする環境が課題となるのではと思われた。また、予算の問題もあり、2021年のデフリンピックでは予算の問題で派遣が中止になったこともあり、今大会も選手は大会側から多少の援助があったが、それ以外は自費での参加となっている。よって今後の課題としては予算の確保も含め、デフスポーツの魅力を伝える必要性もあると考えさせられました。(図16)



図1 Tennis World Albert Reserve



図2 Tennis World Albert Reserve



図3 NTC



図4 テニスコート



図5 トリートメントルーム



図6 トリートメントルームベット



図8 リカバリープール

鈴木梨手(専大)

純粋にテニスをしている人なら誰もが夢見る舞台上プレーができ、とても嬉しかったです。これまでデフテニスを支えてくださった、盛り上げてくださった皆さんの活動があって、夢のような舞台上で試合ができたことを忘れません。個人の結果としては必ずしも満足のいくものではありませんでしたが、今大会は通過点であるとして、今後に活かせるよう目の前のことからまた頑張ります。

(JDTA：日本ろう者テニス協会HPより抜粋)



図7 ロッカールーム



図10 ミルクショップ



図9 ジム



図11 開会式



図12 男女参加者



図13 女子参加者



図14 優勝カップ

| 【シングルス予選リーグ Aグループ】 | | 【シングルス予選リーグ Bグループ】 | |
|--------------------|----|--------------------|----|
| 1位 | 2位 | 1位 | 2位 |
| 3位 | 4位 | 3位 | 4位 |

| 【本戦トーナメント】 | | 【3位決定戦】 | |
|------------|----|---------|----|
| 1位 | 2位 | 3位 | 4位 |

| 【ダブルス総当たり戦】 | | | | |
|-------------|----|----|----|--|
| 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | |

図15 デフテニス試合結果 (JDTA：日本ろう者テニス協会HPより抜粋)



図16 松下強化総括部長と